

学生時代、私の夢はキャリアウーマンになることでした。大学を卒業した年、男女雇用機会均等法が施行され、性差の差別はなくなりました。総合職と呼ばれる全く男女差のない職種に多くの友人も採用されました。私も公認会計士とばかり社会で活躍したいと思っていました。

しかし、二十六歳の年、総合職の友人2人が、相次いでがんで亡くなりました。うち1人は親友で、金融機関で早朝から深夜まで働いていました。私は、励ますことができない自分に無力感を感じました。

しかし、育児をしながら公認会計士として働く日々は、あっという間で、次第に友人達

のことを思いつめる時間も少なくなりました。

私が心と健康のことを考えるようになったのは、次男が産まれた時でした。

働きながら、切迫流産、切迫早産という危機を乗り越え、ようやく産まれた次男は、タウ
ン症で、重い心臓病をかかえていました。

心臓にはいくつも穴がありこいて、体全体に酸素がいきわたらばい状態でした。産後集中治療室に入院する息子を祈るような思いで、見守っていました。私は染色体や健康に関する書籍を読みあさりました。^{その後}通常^の環境で生活できるようになり、退院しましたが、大きくあいた穴は、小学校就学までには手術が必要だと言われていました。

祈ることしかできなばい私は、何かの本に書いてあったように、息子の胸に手を当てて、「ほら、もう治、ちやったよ。」と毎晩毎晩繰り返しました。三歳の時、心臓の穴が完全になくなっていることが確認されました。私は祈る思いとともに信念のエネルギーのよ

うなものを確信しました。ダウン症の寿命は短いといわれていますが、少しでも健康で長生きして欲しいと思い、ますます健康本に熱中しました。中でも自律神経のバランスをとるということが、大切なということがわかりました。しかし、どうやって自律神経のバランスをとればいいのか、ということについては、手軽な方法はありません。私も、私の職場でも、ストレスによる自律神経のアンバランスから体調が思わしくない人がたくさんいます。私の甥も食物アレルギーで、何も食べられない状態が続いています。

これから、私は中医学を勉強して、体のメカニズム、その症状がある原因がわかるよ

うになつて、気功や漢方で家族や周りの人たちの役に立ちたいと考えています。

今の私の夢は、困っている人を少しでも、助けてあげることができるようになりたいということです。